



喜界島はサンゴ礁の隆起速度が特に速い島といわれています。隆起したサンゴ礁の上には場所に
応じて多様な植物が群落を作っています。平成26年3月、荒木海岸が「喜界島の隆起サンゴ礁上植
物群落」として国の天然記念物に指定されました。(写真：喜界町荒木海岸)

子どもたちの身近にある博物館

次長 有元 昭一

11月になると、移動博物館に向けての準備が始まります。今日は、沖永良部島への荷物搬出の日で、10トンコンテナ2つに動物の剥製や昆虫、それを飾る棚などが手際よく積み込まれていきます。鹿の剥製を運ぶときには高さがあるので出入り口の壁等に当てないように気を付けながら運びますが、この時には、子どもたちの喜ぶ顔を思い浮かべながら運ぶと、重さを感じなくなるのが不思議です。

平成7年度から、遠方で当館に来られない地域の皆様のために、毎年1、2市町村や特別支援学校等と連携して移動博物館を開催しています。これまでのアンケート結果を見ると、絵本や写真は見たことはあるけど、「本物を見たのは初めてだ。」という子どもたちの純粋に感動した感想が多くありました。私の住んでいる家の近くに公園があります。

昔は外で遊びながら、桜が咲くのを見て、ウグイスが鳴くのを聞いて春を感じ、夏、秋、冬と1年を過ごしてきたものです。しかし、最近子どもたちの遊んでいる姿を見かけなくなったような気がします。家の中でテレビやテレビゲームに興じているのでしょうか。

子どもたちが、自分の住んでいる地域に豊かな自然があるのを当然と感じ、身近な自然の大切さを知らないのではないかと感じられることがあります。地域の貴重な自然を紹介することで、子どもたちにその地域の自然のすばらしさを知ってもらうことは、移博物館の大切な役割のひとつとなっています。

子どもたちに、いつでも自然のすばらしさを肌で感じてもらえるよう興味・関心を持つ機会を提供する博物館であるためにも、これからも子どもたちの近くにお伺いしたいものです。

「豊かな自然遺産」収集保存事業

「豊かな自然遺産」収集保存事業では、鹿児島島の貴重な自然を記録に残すことを目的として、博物館全職員と館外協力員が共同で取り組んでいます。

今年度は、県本土では桜島・霧島を精力的に調査し、島嶼部では沖永良部島を調査しました。また、鹿児島島の特徴的な場所として口永良部島、トカラ列島の諏訪之瀬島などを調べました。今回はその調査成果の一部についてお知らせします。

植 物

沖永良部島には大山に特別なシイ林があります。その森を特徴付けるアオバナハイノキや北限種となるミ



ヤエヤマハマナツメ

ヤコジマハナワラビ、ヤエヤマハマナツメなどの標本収集と生育環境の調査を行いました。

種子島では、南種子町の本村海岸で砂丘地の植物群落調査を行い、南限となるハイネズ群落や種子島が北限となるスナヅル群落、大規模なイヌマキ群落などの調査と標本の収集を行いました。

県本土では、桜島や新燃岳など噴火活動に伴って変化している植物群落の調査を行いました。また、鹿児島市磯でのキイレツチトリモチの分布状況等についても引き続き調査しました。

地 質

沖永良部島では、カルスト地形や鍾乳洞など隆起サンゴ礁がつくる特有の地形と、石灰岩や大型有孔虫化石を中心に調査・資料収集を行いました。また、種子島や甌島では、化石についての調査・資料収集を行いました。



大型有孔虫化石（知名町）

県本土では、桜島大正噴火 100 年にあわせて、県内の爆発記念碑等の調査および拓本標本の作成を行い、特別企画展「桜島火山

100 年の軌跡」での展示を行いました。

昆 虫

霧島錦江湾国立公園特別保護区での捕獲許可を受け、大浪池や高千穂峰での資料収集を行いました。高千穂峰山頂に飛来する昆虫の採集は6月中旬、7月上旬・下旬の3回実施しました。多様な甲虫類やカメムシ類、チョウ類などを採集したの



ムラサキアオカミキリで、今後標本化し基礎データとします。また、平成 28 年3月からの企画展で、新燃岳噴火の影響を踏まえた霧島の自然を紹介する予定ですので、今後も調査を進めます。

11 月中旬の沖永良部島では、初記録となるホリイコシジミの発生を確認しました。本種は台湾などに分布し、沖縄県でも時々飛来・発生が



確認されますが、鹿児島県下の記録は 2012 年までは開聞岳山麓における1頭しかありませんでした。今回産卵行動や幼虫を発見し、一時的な発生を確認しました。

動 物

サンショウウオの仲間の分布調査を行いました。本年度、サンショウウオについては、調査地に霧島を加えましたが、現在のところ確認することはできて



いません。また、カスミサンショウウオは、従来の調査地

カスミサンショウウオ

に加え、阿久根市鶴川内で数カ所確認できています。今後、これと似た分布をしているアブラボテ（魚類）についても分布地の調査を行っていきます。

3会場の移動博物館 ～その軌跡と特徴～

2013年は「移動博物館事業～博物館がやってきた～」を3会場で行いました。それぞれの場所や対象となる子どもたちごとに、特色を持たせた企画を実施しました。3会場の特徴的な内容を紹介します。

1 種子島開発総合センター「鉄砲館」

10月17日～20日にかけて、西之表市にある種子島開発総合センター「鉄砲館」をメイン会場として実施しました。これは同館の開館30周年の記念事業の一つとして企画され、同館の要請を受けて特別に開催したものです。4日間という短い期間でしたが、2,300人の方々に、展示や科学教室を体験していただき、有意義な事業となりました。



○自然観察会・星空観察会

住吉地区で形之山化石群の発掘会と植物観察会を実施しました。多くの化石が発掘され、参加者からは大きな歓声が上がりました。また夜は旧榕城中学校で星空観望会を行いました。



2 沖永良部島

11月14日～17日にかけて、和泊町中央公民館をメイン会場に行いました。

○星空観察会

知名小学校と和泊小学校を会場に行いました。特に和泊小学校ではプラネタリウム設備と大型望遠鏡を使用でき、普段見ることのない星空を満喫しました。



○自然観察会・自然講演会

観察会は沖泊海浜公園を会場に、海岸性の

植物および県天然記念物に指定された大型有孔虫化石を観察しました。「初めて見た」という方が多く、好評でした。

講演会では講師による沖永良部島の自然紹介の他、地元中学生がイシガケチョウの幼虫に関する研究成果などを発表しました。中学生はポスターにまとめるのに苦戦しましたが、わかりやすく聴衆に説明するという、普段味わえない経験を積むことができました。



教育委員会をはじめ役場の方々、各学校の先生方、ボランティアで参加してくれた沖永良部高校の生徒の皆さんの御協力のおかげで、利用者数は延べ3,200人にもなり大盛況でした。

3 桜丘養護学校

○展示・楽しい実験

11月27日に、体育館を会場に行いました。動物の剥製や昆虫の標本などを初めて見た児童・生徒たちは、歓声をあげ驚いた様子でした。また、楽しい実験の「とほうもなく冷たい世界」では、液体窒素で固まった「バラの花」や「ボール」にびっくりしたり、石ころアートでは、色々な石を使って、自分の好きな動物や花などを楽しく作ったりしていました。



また、午後からは桜丘東小学校の6年生が訪れ、展示物の見学や楽しい実験を体験してくれました。利用数は合計で、501人でした。

来年度も移動博物館をとおして、普段博物館に来ることができない県民の方々、特に未来を担う子どもたちに、鹿児島島の豊かな自然について紹介していきます。御期待ください。

展示コーナー紹介

恐竜頭骨標本が出現！

現在、別館（宝山ホール4階）恐竜化石展示室の一角に、デュアブロケラトプスの頭骨標本（レプリカ）を展示しています。この標本は、約8500万年前に生息した角竜のなかまで、アメリカユタ州の自然史博物館に展示してある標本をもとに作られました。



当館では、2014年夏に鹿児島県の古生物に関する企画展も予定していますので併せて是非御覧ください。

頭骨標本「デュアブロケラトプス」

ボランティア大募集！

県立博物館には、中学生や高校生を対象とした「中・高校生ボランティア」と、大学生や一般の方々を対象とした「博物館ボランティアの会」があります。

中でも5月におこなわれる「博物館まつり：H26年5月18日」や、毎週土曜日・日曜日の楽しい実験・天文教室等のお手伝い、鹿児島県の貴重な標本や資料の整理、小・中学生の夏休み理科作品展などで、ボランティアの方々が活躍！博物館の力強いサポーターとして、欠かすことのできない存在となっています。

博物館ではボランティアの皆様のスキルアップ研修も積極的におこなっており、まったく経験のない方も、すぐに技術を向上させることができます。

今回、平成26年度のボランティアを大募

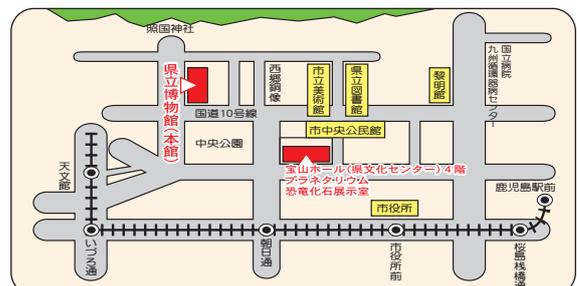
集いたします。自然に興味を持っていらっしゃる方、子どもが大好きな方、博物館でボランティアをしてみませんか。積極的な御参加をお待ち申し上げます。

学芸室の窓から

大正3（1914）年1月12日、世に言う、桜島大正噴火が起こりました。そして今年1月12日、あれからちょうど100年の節目を迎えました。実は、鹿児島県立博物館は、この大噴火がそのルーツとなっています。

大正4年4月に、県立図書館内に大噴火関連資料の保存や展示を行うべく博物部常任委員会が発足しました。同年8月には同じ県立図書館内に郷土博物室が設置され、動植物などの資料収集を開始しました。そして、昭和28（1953）年3月、正式に鹿児島県立博物館が発足、設置されました。つまり、今年は前身から数えて100年、正式に設置されてから61年を迎えることになったといえます。ちなみに現在の本館の建物は、以前は県立図書館だったものです。昭和2（1927）年に竣工されたもので、太平洋戦争の戦火にも耐え、現在は登録有形文化財に指定されています。こちらも87年となかなかのもの。しかし、それ以前、どこに県立博物館があったのか目下調査中ではっきりしないです。知っている方がいらっしゃいましたら、ぜひお知らせください。これからも、鹿児島の宝である自然をわかりやすく示し、県民の皆様に愛され続けたいと思う今日この頃です。

●鹿博だより 編集・発行 鹿児島県立博物館
〒892-0853 鹿児島市城山町1番1号
TEL 099-223-6050 FAX 099-223-6080



ホームページ <http://www.pref.kagoshima.jp/hakubutsukan/>